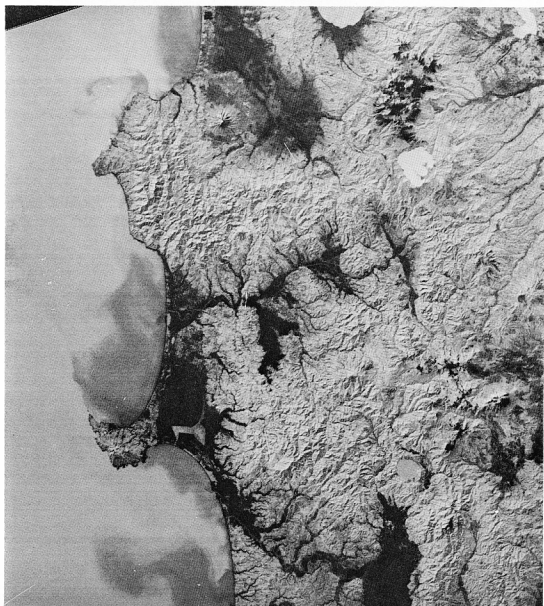


鳩山受信局で得られた 最近のランドサット画像データから



東北地方北部 日本海側の Landsat 画像

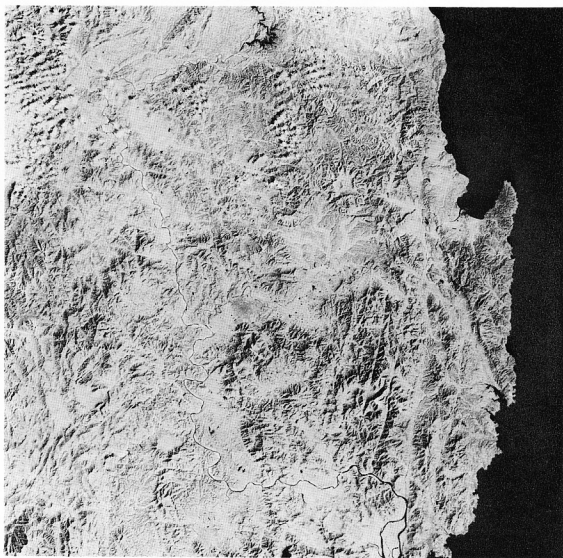
(1979年11月9日)

日本海側に面する地方は全般に雲で覆われたシーンが多いが そうした中でこの画像は珍しく好天下で撮像されている。本文中に説明がなされている 十和田湖北西方の環状地形形態 田沢湖北方の八幡平環状地形形態は画像中に明瞭に識別できる。こうした明瞭な地形形態は火山テクトニクスを反映した地形構造であることが 現地調査による評価の結果明らかにされつつある。大館盆地を中心とする北鹿地域は黒鉱鉱床の中心地として知られるが ここでもグリンタフ活動の際の火山テクトニクスを反映した地形特徴が保存されている。



中国地方西部の Landsat 画像

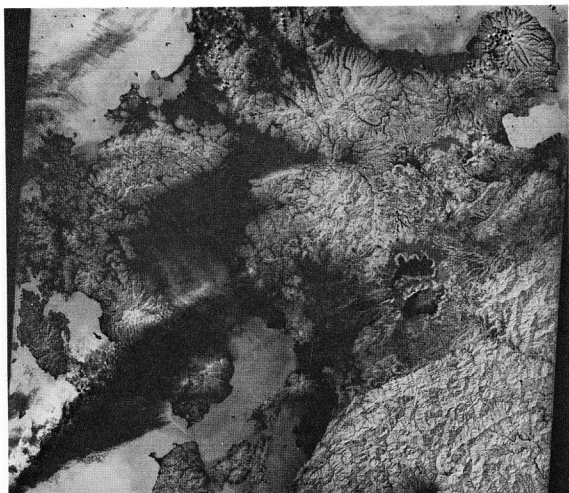
中国地方には北東—南西方向に流れる河川系が多いが、それは白亜紀の断層系に支配された構造谷であり、本画像においても明瞭なりニアメントとして認められる。また、本画中には環状地形構造が識別され、画像中央上部の長楕円状のものはことに明瞭であろう。これは膨大な火砕流を放出した白亜紀の陥没カルデラである可能性が高い（本文参照）。



朝鮮半島南東部の Landsat 画像

(1979年2月19日)

わが国のすぐ隣りでありながら もはやこの地域は大陸の景観をもっている。画像の西側には先カンブリア時代の片麻岩やジュラ紀のミグマタイトが分布し その原岩地層境界がうねりながら南西から北東方向に走るのがみてとれよう。東側の大部分は白亜紀の火山—深成活動の中心域となった慶尙盆地であり ここにいくつかの環状地形構造が認められる(本文参照)。また 画像南西端の釜山付近から北北東にのびるリニアメント群は 古第三紀に活動した右横ずれセンスの巨大断層系であり 日本列島が大陸地域から南下したことを物語る一つの物的証拠ともみられるものである。



九州中北部のLandsat画像(1979年10月9日)

写真の中北部九州豊肥地区は通産省資源エネルギー庁が昭和53年度より大規模深部地熱エネルギー開発調査を精力的に行っている地域である。地下の高温の熱水と蒸気は主として断裂系群を通り路として地表に上昇してくるもので大規模の断裂系群は衛星画像ではその地表ト्रेसがリニアメントとして抽出される。地質調査所では現在地熱資源探査にLandsat衛星データを活用し豊肥地区を全国地熱資源調査のモデルフィールドとして衛星画像解析と地表実証踏査とを密接に連携させた評価調査を進めている。